



日本私立歯科大学協会広報

第 90 号
令和 7 年 9 月

目次

〈巻頭言〉

「憧憬、想像、好奇心」推進力を得るには

鶴見大学歯学部長 山本 雄嗣 2

〈大学のニュース〉

○北海道医療大学歯学部

・星槎道都大学（北広島市）と包括連携協定を締結 4

・由仁町と包括連携協定を締結 4

・海外研修を実施 4

・留学生交流イベントを実施 4

○岩手医科大学歯学部

・口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野の山田浩之教授と口腔医学講座関連医学分野の千葉俊美教授が企画・編集した英文書籍「Internal Medicine for Dental Treatments: Patients with Medical Diseases」が Doody Enterprises の評価で 5 つ星の最高評価を受けました 4

・最終講義が行われました 5

・高大連携ウィンターセッションが行われました 5

・4 学部合同セミナーが行われました 5

○奥羽大学歯学部

・韓国の慶熙大学歯学部を歯学部教員が訪問 6

・2024 年度第 2 回 SD 研修会 6

・ライフサポート部が仙台国際ハーフマラソンへ救護ボランティアとして参加 6

・小林初夫図書館長が郡山駅前のビッグアイで講演 6

○明海大学歯学部

・森 将准教授（口腔顎顔面外科学分野）一般社団法人日本有病者歯科医療学会 第 34 回日本有病者歯科医療学会学術大会優秀発表賞を 3 年連続で受賞 7

・シエナ大学（イタリア）と学術交流協定締結 7

・トゥルク大学（フィンランド）の学生と教員が坂戸キャンパスを訪問しました 8

・さくらサイエンスプログラム 檀国大学校（韓国）からの研修生受け入れレポート 8

○東京歯科大学

・ベルン大学歯学部と学術交流協定を締結 9

・東京歯科大学リカレント教育セミナー（ウェルビーイングプロジェクト主催／東京歯科大学同窓会共催）開催 10

・第 13 代学長に片倉明教授が就任 11

○昭和医科大学歯学部

・上條由美新学長が就任 11

・保健医療学部に進学科・新専攻を設置予定 12

・日本矯正歯科学会学術大会で学術大会優秀発表賞を受賞 12

・日本歯科審美学会第 35 回学術大会で優秀奨励論文賞、優秀発表賞を受賞 13

○日本大学歯学部

・令和 6 年度公開講座について 13

○日本大学松戸歯学部

・令和 6 年度歯科衛生専門学校卒業式及び閉校式 14

○日本歯科大学生命歯学部・日本歯科大学新潟生命歯学部

・本学創立 119 周年式典－富士見に肅然と参列－ 14

○日本歯科大学生命歯学部

・東京短大の新校舎が竣工 15

・附属病院長就任 16

・三枝助教 最優秀賞受賞 16

○日本歯科大学新潟生命歯学部

・新潟短期大学に歯科技工学科増設 16

○神奈川歯科大学

・学校法人神奈川歯科大学と公益社団法人神奈川県歯科医師会の連携 16

・ジャカランドフェスティバル開催 17

・鹿島理事長が旭日中綬章を受章 17

・Fatima 大学との姉妹校更新の調印式 17

○鶴見大学歯学部

・解剖献体精霊供養法会を厳修 18

・歯学部分子生化学講座 齊藤まり助教の研究課題が大倉和親記念財団の研究助成公募に採択されました 18

・オレゴンヘルス&サイエンス大学との学術交流協定を締結 19

○松本歯科大学

・第 118 回歯科医師国家試験新卒合格率 90.7% の好成绩 19

・西本智実マエストロ「桜コンサート」で観客魅了 20

・第 11 代学長に宇田川信之先生が就任 20

・新学費体系スタート 6 年間の授業料 1750 万円 21

○朝日大学歯学部

・保健医療学部救急救命学科 開設記念式典を開催 21

・命を救う学びの始まり 21

・令和 6 年度医学教育関係業務功労者表彰を受ける 22

○愛知学院大学歯学部

・ハノイ医科大学学長および歯学部長が愛知学院大学を表敬訪問 22

・歯学部短期海外研修を実施－スタンフォード大学での貴重な学びの機会 23

・令和 6 年度 第 59 回歯学部学位記授与式を挙行いたしました 23

・歯学部 1 年生一泊研修が行われました 24

○大阪歯科大学

・カンボジアで活躍する卒業生を紹介します 24

・南部隆之講師が NHK「あしたが変わるトリセツショー」に出演しました 25

・「大阪歯科大学 第 3 回 SDGs Awards あなたとわたしの『つながりごはん』エッセーコンテスト」表彰式を開催 26

・第 118 回歯科医師国家試験 新卒合格率 100% 達成！ 26

○福岡歯科大学

・学校法人福岡学園の理事・評議員等を改選、水田詳代氏を理事長に再任 26

・福岡歯科大学学生が日本小児歯科学会学術大会学生優秀賞を受賞 27

・海外の提携校へ学生派遣を実施 27

・福岡歯科大学学生研究支援プログラム リサーチ・スチューデントが決定 28

〈事業概要〉

○令和 6 年度協会決算 29

○令和 7 年度協会事業計画 29

○令和 7 年度協会収支予算 31

○総会 32

○理事会 36

○部会・委員会 43

○事務局長会議 44

〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉

○第 32 回日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士協議会 45

○令和 6 年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会 45

〈叙勲〉 46

〈訃報〉 46

〈人事異動消息〉 46

〈協会役員・部会・委員会名簿〉 61

〈一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿〉 62

〈賛助会員企業紹介〉 65

〈編集後記〉 66

巻頭言

「憧憬、想像、好奇心」 推進力を得るには

鶴見大学歯学部長
山本 雄嗣



情報通信技術（Information and Communication Technology）無くしては、現社会は成立しない。ICT の発展によって社会は高速化かつ効率化され、その程度は計り知れない。この ICT を使って本国のインターネットシステムについて検索してみたところ、それは 1984 年に始まり、当初はいくつかの大学間のネットワークだったようだ。後の 1993 年に商用サービス開始となり一般への普及が始まったらしい。しかしインターネットを利用するためには、デスクトップパソコンやノートパソコンを要したため、今のような手軽さは全く無かった。ノマド族と称されカフェなどでノートパソコンを広げて仕事する（しているように見せる）スタイルが流行った時期もあったが…。デジタル機器は急速に発展し続けた。2008～9 年の iPhone や Android スマートフォンの発売、2011 年の iPad に代表されるタブレットパソコンの販売開始と共に爆発的に ICT が広まり、より庶民に近いものとなった。インターネットの普及率はその頃で 7 割を越えていたようである。現在、小学生からお年寄りまで、スマホ片手に生活している状況である。先人開発者たちはこの状況を想像していただろうか？

小学校から大学での教育にも ICT・デジタル機器が広く導入されている。コロナ禍の際にオンライン講義・授業が盛んに実施され、ここでも ICT の便利さを再確認したことは記憶に新しい。学校教育法の改正によって、2019 年度から紙教科書と当面併用としてデジタル教科書が使用可能となり、文部科学省は中央教育審議会の作業部会でデジタル教科書推進に向けた検討を進めている。一方、以下は 2024.10.22 読売新聞の記事であるが、IT 先進国のスウェーデンでは、本国よりも 10 年以上早い 2006 年にデジタル教育ツールを導入した。各生徒に 1 台ずつの学習用デジタル端末を配備し、デジタル教材へ転換した。ところがこの転換後に子どもの学力低下が目立つようになり、17 年後の 2023 年、デジタル教材の修学への悪影響を危惧して教育現場のデジタル戦略を凍結し、脱デジタルに大きく方向転換したとのことである。スウェーデンのある小学校教諭は、デジタル端末は月に 1 時間程度、効果的な場面のみで使用し、紙教科書と鉛筆を使う時間が増えたことで生徒の集中力、考察力、長文の読み書き力が延びたと述べている。認知神経科学者は「学習の記憶はどのあたりに書かれていたかといった物

理的な位置情報とも関連しており、画面上の情報には記憶に残りにくい」と述べている。

ここからは、デジタル機器やICTに対する私見をメインに記させていただくこととするが、まず私は決してデジタル否定派ではないことを明記しておく。常日頃のICTの利用、デジタル歯科診療を実施等々、デジタルの恩恵に浴している。先日、テレビで生成AIに関する特集番組を放映していた。AIの発展は目覚ましく、AI関連への投資はAIバブルとも呼ばれるほどである。インターネット検索するとAIが即座に返答、学生のレポートにも、悲しい哉、AIの匂いを感じることもある。その特集番組内で中学生位の子どもたちがインターネットやAIについて「答がすぐに出てくるから便利」と言っていた。老若男女、大多数がこのように答えるであろう。高速化と効率化の恩恵を表した今らしい答と思いつつ、ふと疑問が浮かんた。この疑問は学力に直接関係するものではなく、ICT皆無で育った昭和オヤジのぼやきの類であることは、ご容赦願いたい。憧憬・好奇・興味ある事柄を、遠回りしながらでも、時間がかかってでも熱中して深掘りしていくときの高揚感を、子どもたちは味わっているのだろうか？この深掘り時間が長ければ長いほどその事柄に対する想像が膨らみ、より深くと欲するようになる。この想像力や好奇心が、目標に向かう推進力となるのではないだろうか。それが今は、自宅や電車の中でスマホをタップすれば瞬時に情報収集できるのである。年寄りの杞憂だったら良いのだが、高揚時間があまりに短いのでは？と心配になる。

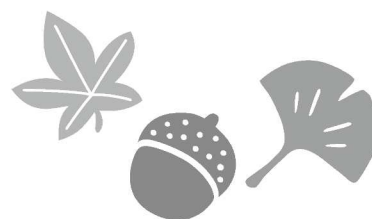
思春期は多感な時期であり、一般にはこの時期に感受性が豊かになると言われている。多感な時期と言っても、置かれた環境に大きく影響をうけるため各個人でさまざまであるが、概し

て10代半ばから20歳過ぎあたりであろう。この時期に受けた刺激によって個々の思考や価値観等が成熟していく。そういう私は、70年代半ばから80年代初頭にかけてスポーツや音楽などの海外文化が怒涛のごとく日本に流入してきた時期に、中学～高校時代を過ごした。当時の情報源は雑誌を見るか、店舗に足を運ぶしかない。私は海外文化に憧れ、想像を膨らませつつ、友人と共に情報収集を楽しんだことを記憶している。

ここまで取り留めなく記させていただいたが、この時点で別の考えが浮かんた。今の子どもたちは私よりも遥かにハイスペックであるために、短い深掘り時間でも十分な想像、高揚感を獲得し、推進力を作り出しているのかもしれない。もしそうだとしたら、私はそのスペックに憧憬を抱いてしまうが、果たしてどうなのだろうか…？

〈筆者の略歴〉

1989年3月	鶴見大学歯学部歯学科 卒業
1993年3月	鶴見大学大学院歯学研究科（保存修復学）修了
1993年10月	鶴見大学歯学部助手・助教（2008年9月まで）
2006年4月	米国オレゴンヘルスアンドサイエンス大学歯学部歯科材料学分野 客員研究員
2008年10月	鶴見大学歯学部講師・准教授（2019年9月まで）
2019年10月	鶴見大学歯学部教授
2025年4月	鶴見大学歯学部長



大学のニュース

■北海道医療大学歯学部■

星槎道都大学(北広島市)と 包括連携協定を締結

2024年12月4日(水)、星槎道都大学(北広島市)と包括連携協定を締結しました。

締結式は北広島市庁舎で執り行われ、星槎道都大学 飯浜 浩幸 学長と本学 三国 久美 学長の署名により協定が締結されました。

本学は2028年4月に北広島市Fビレッジ内に新キャンパスの設置を予定しています。同市内に所在する2大学で連携・協力しながら、北広島市をはじめとする地域社会に貢献し、さらなる発展に寄与できるよう、さまざまな協定事業に取り組んでいきます。

締結式には北広島市 上野 正三 市長がご出席され、両大学への期待の言葉をいただきました。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和6年12月4日掲載)

由仁町と包括連携協定を締結

2024年12月25日(水)、由仁町と包括連携協定を締結しました。

今回の協定は、由仁町と北海道医療大学とが包括的な連携のもと、相互の資源を活用した連携を強化することを目的として締結されたものです。

人的・知的資源の交流をはかるとともに物的資源を活用し、協力して地域貢献を目指します。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和7年1月9日掲載)

海外研修を実施

2025年2・3月に24名の学生が各海外協定校での短期研修に参加しました。

本研修は、国際的な視野をもつ医療人の養成を目的とし、大学間及び学部間提携を結ぶ海外協定校・施設にて、医療施設・研究施設の見学や診療見学・介助、ケースディスカッション、ゼミ・授業への参加、現地学生との交流等が行われました。

講義への参加や現地学生との交流を通じて、知識と国際的な視野を広げる貴重な機会となりました。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和7年4月25日掲載)

留学生交流イベントを実施

2025年4月9日(水)に中央食堂にて留学生交流イベントを実施しました。このイベントは留学生の新入生がより良い学生生活をスタートできることを目的として、留学生サポートセンターが主催し、SCPが企画しました。

留学生は新入生だけでなく大学院生・特別研究員も参加したほか、理事長・学長・副学長をはじめ多くの教職員が参加し、国際交流同好会を中心に新入生へ大学生活のアドバイスや趣味などの雑談を楽しみました。

参加した留学生からは「先生や先輩とたくさん話ができて楽しかった」「また参加したい」との声がありました。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和7年5月21日掲載)

■岩手医科大学歯学部■

口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野の山田 浩之 教授と口腔医学講座 関連医学分野の千葉 俊美 教授が 企画・編集した英文書籍「Internal Medicine for Dental Treatments: Patients with Medical Diseases」が Doody Enterprises の評価で5つ星 の最高評価を受けました

2021年3月に山田教授と千葉教授が企画・編集し、医歯薬出版から発刊した「歯科医師のための内科学」を、2024年2月にSpringer社から英語書籍「Internal Medicine for Dental Treatments: Patients with Medical Diseases」として出版しました。その英語書籍が、この度、新刊書籍を評価する組織であるDoody Enterprisesから5つ星の最高評価を受けました。本書籍はよく目にする内科疾患を取り上げ、各疾患の説明を医師から執筆し、その疾患を持ちあわせている患者さんの歯科治療の留意点を歯科医師の先生方からご執筆頂き、医師と歯科医師の両側面から執筆した画期的な専門書です。

Doody Enterprisesの評価内容は、

1. 歯科医師、研修医、学生など幅広い読者を対象としている
2. 最初の章に症候学を取り上げ、次に疾患の章を適切に取り上げている

3. 全身疾患の口腔症状に対する臨床診断と治療のためのわかりやすく簡潔な手引書である
 4. 全身疾患と口腔症状の関連性を説明している
 5. 疾患別(呼吸器、内分泌、代謝、血液など)に構成されており、妊娠と授乳、臓器移植に関する項目も含まれている
 6. 参考となる写真を多く掲載している
 7. エビデンスに基づいた正当な内容である
- 以上が評価内容の概略です。

本書籍の出版に際して、ご執筆ご協力頂きました先生方に深く感謝申し上げます。

(文責：口腔医学講座関連医学分野 教授 千葉 俊美)



山田教授、千葉教授

岩手医科大学報 vol.557 (令和7年1月発行)

最終講義が行われました

2月28日(金)、大堀記念講堂において、3月31日付をもって定年退職される教授の最終講義が行われました。

聴講者は、各教授によるスライドや在職中のエピソードなどを交えた熱心な講義に耳を傾け、名残を惜しましました。講義終了後には、職員や学生から各教授に花束が贈呈され、惜しめない拍手が送られました。



花束が贈られた定年退職教授ら

左から：田島教授、土井田教授、佐々木教授、佐藤教授、那谷教授、八重柏教授

岩手医科大学報 vol.558 (令和7年3月発行)

高大連携ウィンターセッションが行われました

12月25日(水)・26日(木)の2日間、矢巾キャンパスにおいて、いわて高等教育コンソーシアムと岩手県教育委員会が主催する高大連携ウィンターセッションが行われました。このイベントは、県内の高校生が県内各大学の教育・研究内容に触れる機会をつくり、各大学で学ぶことができる内容を広く知ってもらうことを目的として平成15年から開催しています。

本学では医・歯・薬・看護学部がそれぞれ講座を開講し、97名の受講者が講義や実習を体験しました。



災害時地域医療支援教育センターで行われた医学部講義

岩手医科大学報 vol.558 (令和7年3月発行)

4学部合同セミナーが行われました

4月19日(土)、矢巾キャンパスにおいて、4学部合同セミナーが開催されました。この科目は、4学部最終学年の必修科目で専門職連携教育の集大成として位置づけられ、事前に提示された症例を複数の学部の混成チームによりPBL(問題基盤型学習)形式で検討するものです。

当日は、チームで患者さんへの治療方針等について議論し、インフォームドコンセントを想定して患者さんへの説明内容を検討しました。専門知識を修得した学生が患者さんの立場に立ち、他学部の学生と共に治療方針の検討を行うことで、医療現場における多職種連携の重要性について理解を深めました。



チーム作業(事前学修の内容プレゼン)

岩手医科大学報 vol.559 (令和7年5月発行)

■ 奥羽大学歯学部 ■

韓国の慶熙大学歯学部を 歯学部教員が訪問

韓国の慶熙大学歯学部と奥羽大学歯学部は、長年に渡り姉妹校として教員相互の学術交流や学生のクラブ活動を通じての交流など様々な試みを行ってきた。近年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって相互に訪問することができない状況が続いていたが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、人的交流を再開することになった。

その第一歩として、川合宏仁学生部長、山崎信也教授、山野辺晋也講師、御代田駿講師の4名が2024年11月21日(木)から24日(日)まで慶熙大学を訪問した。慶熙大学では歯学部長、副学部長、国際交流担当教授らと親交を深めることができた。この訪問を契機として、コロナ以前よりも活発な教員の学術交流や学生間の友情を育む取り組みを行っていく予定である。



慶熙大学にて

奥羽大学報 179号 (No.304) (令和7年3月発行)

2024年度第2回SD研修会

2月28日(金)、2024年度第2回SD研修会が「本学教職員の健康管理」というテーマでオンライン開催された。講師は本学産業医の風間咲美医師が務めた。まず、2024年度職員定期健康診断結果について説明が行われた。異常を指摘された人が多かったのは、順に脂質異常症、肥満、高血圧症、脂肪肝、高尿酸血症、糖尿病、腎障害だった。これらの予防・改善には適正なエネルギー摂取および適正体重の維持が基本であり、有酸素運動が推奨されるとの助言があった。また、飲酒はしない方がよいという意見が最近が多いこと、健診(がん検診を含む)は、毎年、退職されてからも受診すべきであることも説明があった。次に、ストレスチェックの結果について、「総合健康リスク」、「量-コントロール判定」、職場の支援判定において本学(全体)は標準を下回り、概ね良好であったが、さらなる対策への提言が紹介され、その中でストレスは保健スタッフだけでなく、自身や管理監督者も常に留意していただきたいとの説明があった。

奥羽大学報 179号 (No.304) (令和7年3月発行)

ライフサポート部が 仙台国際ハーフマラソンへ 救護ボランティアとして参加

仙台国際ハーフマラソンは、参加者が1万人を超え、30年以上続く東北最大のマラソン大会である。本学ライフサポート部は、過去15年以上にわたり、このマラソン大会に救護ボランティアとして参加している。

今年の仙台国際ハーフマラソンは5月11日(日)に開催され、教員4名とライフサポート部の学生11名の計15名がボランティアとして参加した。当日は、脱水／嘔吐／意識障害などで多くのマラソンランナーが救急対応を必要とし、医師、看護師、他の医療系大学の学生ボランティアと協力し、競技中のみならず終了後も数時間にわたって救護活動を行った。

奥羽大学報 180号 (No.305) (令和7年6月発行)

小林初夫図書館長が郡山駅前の ビッグアイで公演

福島県語りと方言の会主催の講演会が5月25日(日)に郡山駅前のビッグアイで開催され、小林初夫図書館長が「学校外教育における方言教育」という演題で公演した。

小林図書館長は、方言教育を学校教育だけで行うには、教育課程という制約が壁になり限界があることから、公民館や図書館、博物館などの社会教育施設で行うことが有効であることを学校外教育として提唱している。学校外教育は参加者の自由な意思に基づく学習が可能で、学習の方法や形態も多様であり、地域の子どもたちから高齢者まで一緒に活動することができ、さらに教育課程による制約もないので方言教育には最適であることを自らの実践を踏まえて解説した。講演には県内各地の語り部の方や方言教育に関心を持つ教員や大学院生なども参加し、熱心に聴講していた。



郡山駅前のビッグアイで
行われた講演会

奥羽大学報 180号 (No.305) (令和7年6月発行)

■明海大学歯学部■

森一将准教授(口腔顎顔面外科学分野) 一般社団法人日本有病者歯科医療学会 第34回日本有病者歯科医療学会学術大会 優秀発表賞を3年連続で受賞

3月16日に御茶ノ水ソラシティで開催された「一般社団法人日本有病者歯科医療学会 第34回日本有病者歯科医療学会学術大会」において、歯学部の森一将准教授(口腔顎顔面外科学分野)が優秀発表賞を受賞した。

この賞は日本有病者歯科医療学会での公募の一般演題の中から、学会賞選考委員会の厳正かつ公平な審査により、特に優れた発表に対して贈られる。森准教授は、3年連続の優秀発表賞受賞となった。森准教授からは「2023年度から3年連続の受賞で、ひとえに本研究にご協力いただきました先生方のたまものと感謝しております。私といたしましても臨床におけるリサーチの成果がこのような伝統ある学会で評価されたことを大変うれしく思っております。この度の栄誉をこれからの臨床や研究の糧として今後も精進いたしたく存じます」と喜びの声があった。



◆受賞演題

口腔内異常感症における
Candida の関与について
の臨床的検討

3年連続で優秀発表賞を
受賞した森准教授

MEIKAI NEWS LETTER 第259号(令和7年7月発行)

シエナ大学(イタリア)と 学術交流協定締結

5月28日、姉妹校である朝日大学とともに、シエナ大学(イタリア)と新たな学術交流協定を締結した。締結式は浦安キャンパスで行われ、本学および朝日大学の宮田淳理事長、本学の中島裕学長、朝日大学の太友克之学長、シエナ大学の Roberto Di Pietra 総長が参加し、協定書への署名、交換を行った。

本学とシエナ大学は、2008年に国際的視野を持つ歯科医師の育成を目的として学術交流協定を締結し、これまでに26人の学生が相互交流を行うなど、長年にわたり緊密な協力関係を築いてきた。今回の新たな協定締結により、これまでの信頼関係を基盤に、学術交流の更なる活性化と学生および教職員の交流機会の拡充、ならびに交換留学プログラムの充実をめざす。



また、翌29日に2025年大阪・関西万博イタリアパビリオンでは、「The Italian Higher Education System at EXPO 2025 Osaka 1st Italian and Japanese Rector's Forum」が開催され、同フォーラム内で行われた学術交流協定締結セレモニーに中島学長が出席。イタリアと日本の高等教育機関間で新たに締結された8件の学術交流協定のうちのひとつとして、本学とシエナ大学との協定が紹介された。

本学では、今後もより一層の国際交流を推進し、教育・研究の質の向上に努めるとともに、世界で活躍できる人材の育成に注力していく。



左から 中島学長、宮田理事長、
Roberto Di Pietra 総長、太友学長



学術交流協定セレモニーに出席する中島学長(右から5番目)
写真引用元: General Commissioner's Office of Italy for Expo 2025 Osaka

MEIKAI NEWS LETTER 第259号(令和7年7月発行)

トゥルク大学(フィンランド)の 学生と教員が坂戸キャンパスを 訪問しました

5月23日、協定校であるトゥルク大学（フィンランド）から、学生2名と教員2名が坂戸キャンパス（歯学部）を訪問しました。

今回の訪問は交換研修プログラム（※）の一環として行われ、午前中は本学の国際交流や研究活動についての講義を受講。付属病院の見学では最新の医療設備や現場の様子に関心を寄せる姿も見られました。

続いて行われた講演会では、学生2名と教員2名による発表が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

昼食には歓迎ランチパーティーが催され、学生と教職員が積極的に言葉を交わす様子が見られ、和やかな雰囲気の中で交流が行われました。

本学では、国際的な歯科医師育成を目的とした交換研修プログラムを実施しています。

（※）交換研修プログラム：本学歯学部は国際的な歯科医師を育成することを目的に、費用全額大学負担の海外研修制度を設けるとともに、海外の各国姉妹校から交換研修生の受け入れも行っています。



明海大学ホームページ（令和7年5月27日掲載）

【さくらサイエンスプログラム】 檀国大学校(韓国)からの研修生 受け入れレポート

12月16日から22日まで、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が行う国際青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプログラム」として、檀国大学校（韓国）からの研修生（学部生4名、大学院生2名）の受け入れを行いました。

研修テーマ「歯科衛生士の訪問口腔健康管理および職種連携、摂食嚥下リハビリテーションプログラムの体験」に基づき、学内実習として「摂食嚥下障害のスクリーニングテスト・口腔機能評価」「摂食嚥下障害に対する訓練」「摂食嚥下障害患者の食事介助」を行うとともに、坂戸キャンパス（歯学部）での付属病院見学および学外の歯科関連施設での見学を通して、超高齢化が進む日本における歯科衛生士の口腔健康管理に関する知識を深めました。

さらに、研修期間中には宮田淳理事長、中舘裕学長や金子潤保健医療学部長をはじめとする本学教員との意見交換会の開催や、保健医療学部生との交流の機会が設けられるなど、相互の親交を深め、今後の両大学の一層の友好発展を祈念する機会となりました。

【実習】



摂食嚥下障害のスクリーニング
テスト・口腔機能評価



摂食嚥下障害に対する訓練



摂食嚥下障害患者の食事介助

【坂戸キャンパス訪問】



入り口にて記念撮影



病院見学(歯科教育用患者ロボットシミュレーションシステム「シムロイド®」)

【交流】



本学教員との意見交換会



保健医療学部生との交流

明海大学ホームページ (令和 6 年 12 月 24 日掲載)

■ 東京歯科大学 ■

ベルン大学歯学部と学術交流協定を締結

2024 年 11 月 20 日(水)、ベルン大学歯学部(スイス連邦)から歯学部長の Hendrik Meyer-Lückel 教授を迎え、大学間の学術交流協定の締結式を執り行った。本学からは井出吉信理事長、一戸達也学長、老年歯科補綴学

講座の上田貴之教授、竜 正大准教授、太田 緑講師が出席した。

本学とベルン大学との交流は、2007 年に上田教授が同大学に留学したことを契機に、歯科補綴学分野での共同研究を中心に長年にわたり進められてきた。

今回の協定締結により、歯科補綴学に限らず、両大学間でさらなる分野における共同研究が進展することが期待される。また、本学が毎年春に実施している Elective Study Program での訪問先にベルン大学を追加し、ベルン大学へ学生派遣を開始する。さらに、ベルン大学からの学生受け入れも検討されている。



協定書にサインをする一戸学長



協定後に握手をする Meyer-Lückel 教授と井出理事長



協定締結後の記念撮影



調印式同席者全員での記念撮影

東京歯科大学広報 第 317 号 (令和 7 年 5 月発行)

東京歯科大学リカレント教育セミナー (ウェルビーイングプロジェクト主催 ／東京歯科大学同窓会共催)開催

2025年2月9日(日)午前9時30分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、東京歯科大学リカレント教育セミナー「口腔機能評価と口腔機能管理の実践のために」が開催された。東京歯科大学研究プロジェクト(ウェルビーイングプロジェクト)では、大学と同窓会を中心としたリカレント教育セミナーを開催している。本教育セミナーは、基礎と臨床のそれぞれの立場から最新の知識を学べる双方向性の情報交換の機会を設け、進歩する研究と医療技術に対応し、日々の臨床と研究活動に還元することを目的としている。今回は、老年歯科補綴学講座の上田貴之教授と小児歯科学講座の新谷誠康教授が「各ライフステージにおける口腔機能管理」に関するシンポジウムを企画し、本領域における基礎と臨床のエキスパートによる講演が行われた。

一戸達也学長と富山雅史同窓会会長による開会の辞の後、上田教授より全ライフステージにおける口腔機能管理の重要性についての概要が説明された。引き続き、新谷教授と上田教授による座長のもと以下の講演が行われ、活発な質疑応答が繰り広げられた。最後に山本 仁副学長による閉会の辞で会が締めくくられた。参加者は会場とオンライン合わせて239名と大盛況であった。

本リカレントセミナーは、口腔機能の維持と改善からウェルビーイング社会を実現するといった本学研究プロジェクトの目的と合致しており、日常臨床のさらなる発展と大学における新たな研究シーズの創生が期待できる有意義な機会となった。



講演する星野講師



講演する太田講師



講演する大久保准教授

【講演の演題と演者】

- ・高齢期の口腔機能の重要性……………池邊一典先生(大阪大学大学院歯学研究科有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座・教授／老年歯科補綴学講座・非常勤講師)
- ・筋代謝の観点から考える咀嚼筋の老化に関する基礎研究……………星野照秀先生(口腔病態外科学講座・講師)
- ・壮年期・中年期では口腔機能をどう評価して何を管理すべきか……………太田緑先生(老年歯科補綴学講座・講師)
- ・高齢者のフレイル予防を基軸とした栄養・食生活と口腔の関わり
……………本川佳子先生(東京都健康長寿医療センター研究所・自立促進と精神保健研究チーム 研究員(管理栄養士))
- ・小児の口腔機能管理 ―口腔機能発達不全症の対応―
……………浜野美幸先生(千葉歯科医院・院長／小児歯科学講座・非常勤講師)
- ・健康な成長を築くための発達期の食事と摂食嚥下……………大久保真衣先生(口腔健康科学講座・准教授)

第13代学長に片倉 朗教授が就任

2025年5月31日をもって任期満了を迎える一戸達也学長の後任の学長選任は、学校法人東京歯科大学寄附行為に定められた手続きに従い、2025年3月25日(火)開催の第773回講座主任教授会の推挙を受け、2025年3月28日(金)の第756回理事会にて、片倉 朗教授の新任が決定した。任期は2025年6月1日から2028年5月31日までの3年間である。

学長の就任に伴い、2025年6月2日(月)午後5時30分より水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、学長就任式が田口 睦大学庶務課長司会のもと開催された。

法人役員として、井出吉信理事長、片倉 朗業務執行理事、加藤靖明業務執行理事、田口円裕業務執行理事、澁谷國男業務執行理事、金森越哉理事、石井拓男常勤監事、橋本正次常勤監事、榊原一夫監事が、寄附行為規定役職者として、片倉学長、齋藤 淳短期大学学長、山本 仁副学長、山下秀一郎副学長・千葉歯科医療センター長代行、田口水道橋病院長、菅 貞郎市川総合病院長、阿部伸一大学院歯学研究科長、菅野亜紀短期大学副学長が登場した。

就任式の模様はオンラインにて全教職員に配信された。



井出吉信理事長より辞令を交付された片倉学長



挨拶をする井出理事長



就任の挨拶をする片倉学長



法人役員と寄付行為規定役職者の集合写真

東京歯科大学広報 第318号 (令和7年6月発行)

■ 昭和医科大学歯学部 ■

上條由美新学長が就任

昭和医科大学では、久光正前学長の任期満了に伴い、2025年5月23日付で上條由美新学長が就任しました。1928年に前身となる「昭和医学専門学校」が創設されて以来、初の女性学長就任となります。任期は2025年5月23日から2028年3月31日までになります。

<新学長からのメッセージ>

「創立100周年を見据えた改革期に向けて」

このたび、昭和医科大学第15代学長に就任いたしました。前学長の志を受け継ぎ、未来の医療を担う人材の育成を使命とし、「日本一のカリキュラム」の実現を目指した教育改革を、引き続き推進してまいります。

本学は、2025年4月1日に校名を「昭和医科大学」へと変更し、医系総合大学であることをより明確に打ち出しました。2027年4月1日には、神奈川県川崎市鷺沼に新キャンパスの開設を予定しており、最新設備を備えた学習環境の提供、医療教育の更なる充実を図ります。保健医療学部には新学科を設置し、より専門性の高い教育を推進します。そして、2028年11月15日に創

立100周年を迎えます。これらの大きな節目を控えた時期に学長に就任したことを光栄に思うと同時に、重責を果たす決意を新たにしております。

今後とも、みなさまの変わらぬご支援・ご指導を心よりお願い申し上げます。



上條 由美 新学長

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS (昭和医科大学新聞)
第625号 (令和7年6月発行)

保健医療学部到新学科・新専攻を 設置予定

昭和医科大学では、創立100周年記念事業の一つとして、保健医療学部到新学科・新専攻の開設を予定しています。

医系総合大学としての更なる発展を目指し、育成する医療人の幅を広げるため、2027年4月1日付で、リハビリテーション学科に、新たに言語聴覚療法学専攻と視覚機能療法学専攻の2専攻を加え、併せて医療技術学科を新設し、診療放射線技術学専攻、臨床工学専攻、歯科衛生学専攻の3専攻を開設する予定です。

<現行>

医学部	医学科	
歯学部	歯学科	
薬学部	薬学科	
保健医療学部	看護学科	
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻 作業療法学専攻

<2027年4月1日以降>

医学部	医学科	
歯学部	歯学科	
薬学部	薬学科	
保健医療学部	看護学科	
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻 作業療法学専攻 言語聴覚療法学専攻 視覚機能療法学専攻
		診療放射線技術学専攻
		臨床工学専攻
		歯科衛生学専攻
	医療技術学科	

※設置構想中であり、今後、内容が変更となる可能性があります。

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS (昭和医科大学新聞)
第626号 (令和7年8月発行)

日本矯正歯科学会学術大会で 学術大会優秀発表賞を受賞

歯学研究科4年の澁坂和太さん（歯科矯正学専攻）が、第83回日本矯正歯科学会学術大会（2024年10月29日～31日：パシフィコ横浜）において、演題名「空間トランスクリプトーム解析とシングルセル解析による変形性顎関節症の分子病態メカニズムの解明」の発表を行い、学術大会優秀発表賞を受賞しました。

日本矯正歯科学会は、歯科矯正学・矯正歯科臨床の進歩・発展を目的として、1926年に設立された日本を代表する歯科矯正学を専門とする学術団体です。今年度の学術大会は「矯正歯科治療における形態と機能の調和を目指して」というテーマで開催され、5,000人を超える参加者が集まりました。

【澁坂和太さんのコメント】

このたびは日本矯正歯科学会学術大会において学術大会優秀発表賞を賜り、大変光栄に存じます。

本研究は、過度の力学的ストレスや炎症性ストレス、関節円板の位置異常などによって誘発される変形性顎関節症（TMJ-OA）の病態メカニズムの解明を目的にマウスモデルを用いて様々な解析を行った基礎研究になります。

今回の発表に際し、ご指導いただきました矢野文子講師（歯学部口腔生化学講座）、中納治久教授（歯学部歯科矯正学講座）、吉田寛講師（同）、岡田寛之先生（東京大学大学院医学研究科疾患生命工学センター臨床医工学部門）、寺島明日香先生（東京大学医学部附属病院 整形外科骨・軟骨再生医療講座）、金英寛先生（京都大学生物科学研究所生命システム研究部門）、鈴木稜先生（東京大学大学院新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻）をはじめ、関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。



左から中納治久教授、澁坂和太さん

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS (昭和医科大学新聞)
第624号 (令和7年4月発行)

日本歯科審美学会 第35回学術大会で優秀奨励論文賞、 優秀発表賞を受賞

日本歯科審美学会第35回学術大会（2024年12月7日～8日：あわぎんホール）において、新妻由衣子講師（歯学部歯科保存学講座保存修復学部門）らが、論文名「プレフィルドホームホワイトニング材に関する臨床研究 20症例18ヵ月フォローアップ」で優秀奨励論文賞を受賞しました。

<論文情報>

論文名：プレフィルドホームホワイトニング材に関する
臨床研究 20症例18ヵ月フォローアップ
掲載誌：歯科審美36巻（2023-2024）1号
著者：新妻由衣子、小林幹宏、菅井琳太郎、寺島実華子、
長谷川正剛、山口麻衣、真鍋厚史

また、菅井琳太郎助教（歯学部歯科保存学講座保存修復学部門）が、演題名「ユニバーサルシェードコンポジットレジンで装着されたポーセレンラミネートベニア修復の色調評価」で優秀発表賞（デンツプライシロナ賞）を受賞しました。

【新妻由衣子講師のコメント】

この度はこのような賞を賜り、大変光栄に存じます。

本研究は、歯学部歯科保存学講座保存修復学部門にて治験を実施し、承認・発売に至った新規ホームホワイトニング材について有効性と安全性を評価した臨床試験の報告になります。承認後発売され、今では歯科病院保存修復科ホワイトニング外来にて多くの患者さんが使用しています。歯のホワイトニングは、患者さんの口元を美しく、笑顔をより魅力的にするのみならず、口腔衛生管理のモチベーションの向上などにもつながると報告されています。今後もホワイトニングの基礎研究、臨床研究を続け、社会への貢献に尽力していきたいと考えております。

本研究においてご指導いただきました小林幹宏准教授（歯学部歯科保存学講座保存修復学部門）、東光照夫客員講師（同）、関係者の方々に心より御礼申し上げます。

【菅井琳太郎助教のコメント】

この度は日本歯科審美学会第35回学術大会にて優秀発表賞をいただき、大変光栄に存じます。

本研究は、前歯部の審美性改善に用いられるラミネートベニア修復において、装着する歯の状態や装着に用いるセメントの特性が最終的な色調に、どのような影響を及ぼすかについて探求した内容です。ラミネートベニア

修復は非常に繊細な色調再現性が求められる修復技法であり、私としましても本研究を通じて新たな知見を得ることができました。今回の結果を日々の臨床に生かしつつ、新しい研究分野に貢献できるように今後とも尽力したいと思います。

本研究の遂行においてご指導いただきました小林幹宏准教授（歯学部歯科保存学講座保存修復学部門）また、関係者の方々に心より御礼申し上げます。



左から新妻由衣子講師、小林幹宏准教授



左から小林幹宏准教授、菅井琳太郎助教

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS（昭和医科大学新聞）
第624号（令和7年4月発行）

■ 日本大学歯学部 ■

令和6年度 公開講座について

去る11月30日、「みんなで『食べる』を支えよう～イートロス対策していますか～」というテーマで、今年度より摂食機能療法学講座主任教授にご就任された米永一理先生に、企画・広報委員会から講演依頼をさせていただきました。米永先生は、歯科医師免許と医師免許を持つダブルライセンスドクターとして、日々各方面にて活躍されています。以下に、米永先生にご開示いただいた本講演会の抄録をご紹介します。

「人の3大苦痛として疼痛、うつ、カヘキシアがあります。この中でカヘキシアは、悪液質とも呼ばれ、食べ

られずに衰弱し、やせ細った状態をいいます。つまり、食べられない状態が続くこと（＝イートロス）は苦痛の原因となり、解決すべき課題です。



また、人が生きていく上での基本的な欲求として、睡眠欲、排泄欲、食欲があります。この中で睡眠と排泄は、たとえ介護が必要な状態になっても、満たすことができます。しかしながら、食欲だけは誰かに介助をしてもらわないと満たすことができません。

このようなことから、生涯的確に『食べる』を維持することが重要です。そのためには、口腔機能が衰えないようオーラルフレイルについて知り、イートロスの苦痛を経験しないようイートロス予防ができる必要があります。さらには多職種連携の先にある、医療と市民（住民）、市場（産業）、市政（行政）との連携をする医市連携を行うことも重要となってきています。よって今回、この連携の例を交えながら、みんなで「食べる」を支えられるよう、イートロスの観点から対策をまとめます。」

今回の講演では、米永先生からイートロスという用語の語源や、実際の活動内容のご紹介など、専門的な知識をお持ちでない一般の方でも十分ご理解いただけるよう、平易なご解説をいただきました。講演後、質疑応答の時間には受講者から熱心な質問があり、盛況のうちに本講演会の幕を閉じることができました。終了後のアンケートでも受講者からは満足度が高く、非常に肯定的な多くのご意見をいただきました。

桜歯ニュース 第225号（令和7年1月発行）

■ 日本大学松戸歯学部 ■

令和6年度歯科衛生専門学校卒業式及び閉校式

3月8日（土）午前10時から50周年記念講堂において卒業式が執り行われ、平塚浩一校長から38名の卒業生に卒業証書が授与されました。

御来賓として三橋千代子同窓会長、高澤みどり千葉県歯科衛生士会長、伊藤孝訓北原学院歯科衛生専門学校長、古谷由美子松戸歯学部同窓会長、那須郁夫第13代校長、河野善治第14代校長及び久山佳代第16代校長が参列される中、平塚浩一校長による式辞、福本雅彦学部長による告示、三橋同窓会長及び高澤千葉県歯科衛生士会長による祝辞が述べられました。

卒業生を代表して三浦由紀乃さんが謝辞を述べ、多数の保護者の方々と教職員が見守る中で、式は厳粛の裡に

執り行われました。

また、卒業式に引き続き閉校式が執り行われ、福本雅彦学部長による式辞、平塚浩一校長から福本雅彦学部長への校旗返納、平塚浩一校長による閉校宣言があり、昭和49年4月の開校以来、長きに渡り、2,176名の卒業生を社会に送り出した本学部附属歯科衛生専門学校は、その歴史に幕を閉じることとなりました。



松戸歯ニュース 第189号（令和7年6月発行）

■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

本学創立119周年式典 - 富士見に肅然と参列 -

本学の創立119周年記念式典は、6月1日の創立記念日に、約300名が東京富士見に肅然と参列して挙行された。名誉博士号授与、永年勤続者表彰が併催された。卒業50年・25年式典特別参列（ジュビリー5025）の校友多数も参列した。午後からは祝賀会が、ホテルエドモントで行われた。

日本歯科大学創立119周年記念式典は、定刻午前11時、本館富士見ホールにおいて開催された。宇多美穂庶務部長が開式を宣し、築土神社の神職による神事が執り行われた。

本学の119年にわたる歴史が祝詞において朗々と奏上され、中原泉理事長が神前に進みでて、玉串を奉奠すると参列者は二礼二拍手一礼をもって同拝した。

次に、藤井一維学長、中原貴理事、蓮見壽伯理事、小林隆太郎理事、渡邊儀一郎校友会長が玉串を奉奠し拝礼した。

神職が退場ののち、中原理事長が、創立119周年記念式典に立ち会えた喜びと感謝を述べた。

式辞は、本学は創立時からの地の利に恵まれた大学であるとし、富士見町、東小金井、飯田橋駅前、新潟浜浦町、神楽坂上と本学地地の発展を改めて披露した。

また、本年の卒業生は、第114回卒であるが歯科大

学・歯学部では、唯一三桁の最多を数える卒業回数であることを改めて披露した。

次に、藤井学長が、昨年の中原理事長の式典挨拶で、「最古・最大・唯一・最多の四つの特色に加え、五つ目の“最高”を目指す」と宣言されたが、一、二年で成し遂げられるものではなく、学長任期二期目のうちにきっかけまでは作っておきたいと述べた。

次いで、渡邊儀一郎校友会長が祝辞を述べた。

ここで名誉博士号授与に移った。

中原理事長より、石井拓男先生（東京歯科大学常勤監事）が紹介され、愛知学院大学を卒業され、同衛生学講座の助教授を経て、厚生省に入省、保健局歯科医療管理官、歯科衛生課長等を歴任され、退官後には東京歯科大学教授（社会歯科学）、副学長、現在常勤監事を務められること、とりわけ世に富士研とよばれる歯科医師臨床研修指導医WSの“生みの親”であることが披露された。

そして中原理事長より石井先生に、第28号の名誉博士の学位記が授与された。

このあと、石井先生より、歯科厚生行政の経緯と進展について、当事者の立場から興味深い逸話をふくめて具体的に率直に語られ、参列者に深い感銘を与えた。

つづいて、永年勤続者表彰に移る。

30年勤続者10名、20年勤続者11名が呼びあげられ、20年勤続者を代表して井出吉昭（東京・解剖）、30年勤続者を代表して廣安一彦（新潟・口腔インプラント）が、中原理事長より表彰状を授与された。表彰者を代表して廣安一彦教授が謝辞を述べた。

おわりに、参列者全員で校歌を斉唱し、12時30分に閉式した。

このあと会場を移して13時よりホテルエドモントにおいて、祝賀会が催された。席上、中原貴副学長が創立119年を祝して開宴の挨拶をした。



中原理事長



名誉博士 石井拓男先生

日本歯科大学新聞 第699号（令和7年8月発行）

■日本歯科大学生命歯学部■

東京短大の新校舎が竣工

－ 神楽坂上に5階建 －

このほど本学は、東京短期大学の校舎を神楽坂上に新築した。工事は昨年8月に着工したが、海外からの資材の遅れ等により、工期18ヶ月を経て本年1月末に竣工した。

同東京短大の竣工式は、令和7年1月29日に新宿区筑土八幡町の新校舎において、関係者約80名が参列して挙行された。

午前11時、2階の式場において開式した。筑土八幡神社の神官による神事が催され、祝詞奉上につづいて各代表が玉串を奉奠した。

神酒拝載のあと、建築主の中原泉理事長が、「私の日頃の散歩道の大久保通りに、シュールでオーソドックスで重厚な東京短大が出現した」と、設計・施工ほか各関係者に篤い謝辞を述べた。

ついで、設計監理の山下設計の藤田秀夫代表取締役社長、施工の熊谷組の櫻野泰則取締役会長が挨拶した。

竣工式は、11時45分に閉式した。12時より同階会場での竣工披露宴に移った。

まず、小林隆太郎東京短期大学学長が、「歯科技工士と歯科衛生士の学生諸君が見たら、ワクワクして勉強に励むのではないかなと思う。教職員一同が心を新たにしてい、彼らの教育に専念したい」と喜びを述べた。

ついで、来賓を代表して高橋英登日本歯科医師会会長が、「母校の発展を拝見し、これ以上の喜びはない。ここ神楽坂上は、歯科衛生士と歯科技工士の殿堂となるだろう」と祝詞を述べた。

ここで、藤井一雄日本歯科大学学長が、竣工を祝って乾杯の発声をし、華やかな祝宴に入った。

この新校舎は、飯田橋西口より神楽坂通りを徒歩10分、同東口からは大久保通りを徒歩5分の立地にある。



短大新校舎



竣工式 中央は挨拶する中原理事長

筑土神社の隣り、東京新宿メディカルセンターの斜向いに位置する。敷地 1376㎡（約 417 坪）に、鉄筋コンクリート造り 5 階（延床面積約 3700㎡・約 1121 坪）が建てられた。

建物は、教育施設として機能性と快適性を有し、施設は前校舎より 30%ほど拡充された。各階には、歯科技工士教育・実習室、歯科衛生士教室・実習室はじめ、多目的室（講堂）、学生自習室、ラウンジ等が新装整備された。

1 階ホール前には、金属焼付ポーセレンの開発で知られる国際的な歯科技工士の故桑田正博先生より寄贈された記念品を、展示・保管する『桑田正博記念館』を開館する。

3 月中旬に早稲田通りの旧校舎から移転し、新年度の 4 月より新校舎において開校する。

〈東京短期大学〉

〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町 2 番 3 号

☎ 03-3266-5061

日本歯科大学新聞 第 695 号（令和 7 年 1 月発行）

附属病院長就任

口腔外科小林隆太郎教授が、令和 7 年 4 月 1 日付にて附属病院長に就任

略歴：1984 年（昭和 59）3 月本学卒業（第 73 回卒）、89 年（平成元）3 月大学院歯学研究科修了。同年 4 月本学歯学部口腔外科学教室第二講座助手、91 年（平成 3）4 月講師、2001 年 1 月歯学部附属病院口腔外科に配置換、03 年 4 月助教授。10 年 4 月教授、21 年（令和 3）4 月東京短期大学学長を経て、25 年 4 月附属病院長に就任する。



日本歯科大学新聞 第 698 号（令和 7 年 6 月発行）

三枝助教 最優秀賞受賞

生命歯学部歯科保存学講座の三枝慶祐助教は、日本歯科医師会主催の全国歯科大学・歯学部若手歯科医師臨床症例発表会において、演題「垂直性歯根破折を起こした上顎



トロフィー授与

右側第二小臼歯に根管内接着法併用意図的再植術を応用し良好な治療が得られた一症例」で、適切な診査診断から治療へのプロセスを視覚的に分かりやすく発表したこと等が評価され、最優秀賞を受賞した。

日本歯科大学新聞 第 699 号（令和 7 年 8 月発行）

日本歯科大学新潟生命歯学部

新潟短期大学に歯科技工学科増設

本学の新潟短期大学（小松崎明学長）は、歯科技工学科の新設の申請手続きをすすめてきた。

文部科学省は、令和 7 年度開設予定の大学の学部等の設置の認可について、大学設置・学校法人審議会で審議のうえ、令和 6 年 8 月 28 日に設置の可否を答申した。

新潟短期大学の歯科技工学科は、定員 20 名の設置が認可され、本年 4 月に開設となった。

同短大は、歯科技工学科（2 年制）の増設により、歯科衛生学科と併せて、二学科を有することになる。

同短大は、昭和 58 年（1983）に附属新潟専門学校として開校し、昭和 62 年に新潟短期大学に昇格した。

日本歯科大学新聞 第 693 号（令和 6 年 9 月発行）

神奈川歯科大学

学校法人神奈川歯科大学と 公益社団法人神奈川県歯科医師会の連携

2025 年 1 月 31 日（金）、学校法人神奈川歯科大学と公益社団法人神奈川県歯科医師会は、同大学の教員等を一括して神奈川県歯科医師会



の会員とする契約を締結しました。目的は、神奈川県歯科医師会が提供する講習会等の研鑽の場や歯科医師同士の交流機会をより一層促進することにあります。

この契約により、本学所属の歯科医師が神奈川県歯科医師会の各種事業に参加できるようになり、相互の交流が活発化するだけでなく、両者が掲げる理念や活動方針に良い影響を与えることが見込まれます。この取り組みは全国の歯科医師会でも前例のない新たな試みであり、地域社会の期待に応える歯科医師会活動のさらなる発展と組織力の強化に向けた重要な施策として、今後の展開に大きな期待が寄せられています。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第52号（令和7年5月発行）

2025 ジャカランダフェスティバル開催

2025年6月8日(日)、第9回ジャカランダフェスティバルを開催いたしました。明け方から降り続いた小雨も開場前には上がり、「老若男女が愉しめる一日」というキャッチフレーズどおり、幅広い年代の方々にお越しいただきました。

今回はキャンパスセンター開設後初めての開催で、旧本部棟の跡地が広々とした空間となり、ジャカランダの花を遠くからでも見られるようになりました。数々のイベントが催され、会場全体が活気に満ちていました。今年は約8,500名と過去最高の来場者となり、多くの市民の皆様と交流を図る事ができました。

本学独自の文化事業としてスタートしたジャカランダ



フェスティバルは、来年10回目を迎えます。「完璧ではない手作りのフェス」の集大成と位置づけ、大学史に残るイベントにしたいと思います。

ジャカランダフェスティバルにご参加くださった全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第53号（令和7年9月発行）

鹿島勇理事長が旭日中綬章を受章

2025年4月29日付にて令和7年春の叙勲受章者が発表され、本法人の鹿島勇理事長に旭日中綬章が授与されました。旭日章は国家や公共に対し顕著な功績を挙げた方に贈られる勲章で、本受章は長年にわたる私学振興の功績によるものです。

鹿島理事長は、経営が危機的状況にあった2009年12月に本法人の理事長に就任し、経営再建に粉骨砕身して取り組んだ結果、短期間で財務状況を正常化し、その後も安定した経営を継続するなど、現在に至るまで本法人の発展に多大な功績を残しています。

また、放射線学を専門として長年にわたり当該領域における教育と研究に尽力し、多くの研究業績を残されるとともに、後進の育成に寄与しています。

それらの功績が特に顕著と認められ、この度、本法人の理事長として現役での受章となりました。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第53号（令和7年9月発行）

Fatima 大学との姉妹校更新の調印式

2025年1月9日(木)にフィリピンマニラにあるFatima大学(Our Lady Of Fatima University)を櫻井孝学長、半田慶介教学部長、窪田光慶教授の3名で訪問し、姉妹校更新の調印式を行いました。これまでに最初の調印式(2003年7月22日)、最初の更新(2014年11月18日)および旧病院の器材提供(2018年4月5日)の3回にわたり、Fatima大学の学長、歯学部長、病院長などメンバーを横須賀にお招きしてきましたが、今回は今後の学生交流の準備を兼ねてFatima大学を訪問しました。歯科病院を見学した際には、神奈川歯科大学の

旧病院のユニット、歯科用エックス線装置が現在もメンテナンスされて一線で活躍しており、大変懐かしさを感じました。

調印式では、学長の DR CAROLINE S. ENRIQUES と櫻井学長との間で今後の両大学の交流について宣言が行われました。Fatima 大学は総合大学で、歯学部、薬学部、看護学部などの医療系、ビジネス系、観光ホスピタリティー系、IT 系、教育系、社会学系など、多くの学部を有する大学です。今後、両校の間で学生の交流、教員の交流・研究・教育を行っていく予定です。



Fatima 大学に寄贈した歯科用ユニット



調印式

学校法人神奈川歯科大学新聞 第53号（令和7年9月発行）

■鶴見大学歯学部■

解剖献体精霊供養法会を厳修

令和6年10月4日（金）午後1時30分から大本山總持寺大祖堂において、大本山總持寺猊下 石附周行老師ご導師のもと、令和6年度歯学部解剖献体精霊供養法会が厳修された。

次第

開式の辞

前鼓鉦三通

献香献花 三婦依の歌

ご供養の言葉 学長

拈香法語

読経 参列者全員焼香

回 向

後鼓鉦三通

大禪師猊下御垂示

感謝の言葉 代表学生

大導師退堂

閉式の辞



鶴見大学報 令和6年度5号 第447号（令和7年1月発行）

歯学部分子生化学講座

齊藤まり助教の研究課題が大倉和親記念財団の研究助成公募に採択されました

齊藤まり先生（分子生化学講座・助教）の研究課題である「新構造アモルファスリン酸カルシウム相を付与したジルコニア歯科インプラントの開発」が、「大倉和親記念財団」による2024年度研究助成公募・女性研究者部門に採択された（研究期間：2025年4月～2026年3月、助成金額：1,500千円）。当該公募はセラミック材料の基礎と応用に関する優れた新規研究に対して助成され、一研究機関につき一件のみ推薦される高難度案件である。

本研究課題は、次世代インプラント材料であるジルコニアのオッセオインテグレーション能を飛躍的に向上させる、新たな表面改質法を提案するものである。この研究では、口腔内で迅速にアパタイトに相転移するアモルファスリン酸カルシウム（ACP）をインプラント表面に付与することで、骨とのシームレス且つ強固な結合を目指す。カルシウム溶液とリン酸溶液の急速混合により形成する従来のACPから相転移したアパタイトは、骨アパタイトとは異なる形態を呈するため（図1a, b）、骨との完全な結合は望めない。今回、独自の方法を用いて新たな構造のACPを作製し、新構造ACPが生理環境下で骨アパタイトに酷似した形態のアパタイトに変化することを発見（図1c）、オッセオインテグレーション能を強化する新規表面改質法として提唱した。

新構造ACPは相転移後に骨アパタイトと同構造になることから、インプラント表面の改質のみでなく象牙

質・セメント質・骨の修復及び再生にも適用可能である。齊藤先生の今後の研究により、この ACP が歯科分野全般の研究に広く適用されることを期待する。

(分子生化学講座教授 山越 康雄 記)

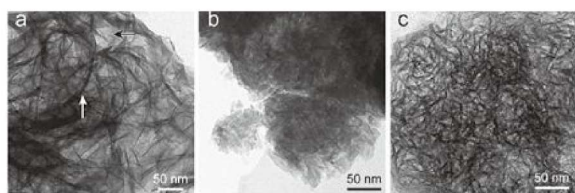


図1：透過電子顕微鏡画像。(a)細胞産生骨アパタイト(白：ナノファイバー、黒：薄板)。(b)従来法で作製した ACP から相転移したアパタイト。(c)独自の方法で作製した新構造 ACP から相転移したアパタイト。

鶴見大学報 令和6年度5号 第447号(令和7年1月発行)

オレゴンヘルス&サイエンス大学との学術交流協定を締結

鶴見大学歯学部は、アメリカ合衆国のオレゴンヘルス&サイエンス大学 (Oregon Health & Science University) 歯学部との間で学術交流協定を締結し、2月18日(火)、鶴見大学2号館歯学部長室において調印式が開催されました。

調印式には、オレゴンヘルス&サイエンス大学から歯学部長の Ronald L. Sakaguchi 氏が出席し、本学からは歯学部長 大久保力廣教授、国際交流センター長・歯学部国際交流委員長 山越康雄教授、国際交流センターアスリ・ジャヤワルディナ学内講師、歯学部保存修復学山本雄嗣教授らが出席しました。出席者の挨拶の後、協定書への署名が行われました。

オレゴンヘルス&サイエンス大学は、アメリカ合衆国オレゴン州の公立大学で、歯学教育、医学教育などの医療分野を専門としています。今後両大学間において様々な交流が行われることが期待されます。

(歯学部保存修復学 山本 雄嗣 記)



学術交流協定調印式にて

鶴見大学報 令和6年度6号 第448号(令和7年3月発行)

■松本歯科大学■

第118回 歯科医師国家試験 新卒合格率 90.7%の好成績

過去6年の新卒平均合格率は全国第2位！
実力を発揮し毎年安定した好成績おさめる

厚生労働省は3月14日(金)、第118回歯科医師国家試験の合格者を発表した。本学の新卒受験者54人中49人が合格(90.7%)、新卒合格率で5年連続の90%以上の好成績となった。歯科情報サイト最大手のWHITE CROSSは「近年の歯科医師国家試験の成績は、東京歯科大学と松本歯科大学が安定して高い合格率を維持している」と報じている。

松本歯科大学の過去5年の平均合格率91.98%、過去3年の平均合格率91.38%はともに、全国歯学部全29校で第2位である。この結果は、本学の教育システム・カリキュラムの長年にわたる改革が奏功した結果と考えられる。

第118回歯科医師の国家試験総出願者数は3431人であったが、実際の総受験者数は昨年より78人少ない3039人であった。

新卒の未受験者は337人であり、減少傾向にはあるが、各大学において受験者は依然厳しく絞られている状況にある。

総合格者数は昨年より76人多い2136人となり、既卒・新卒を含めた全体の平均合格率は、70.3%(昨年より4.2%上昇)、国立・公立大学は79.9%、私立大学は67.2%であった。全体合格率が70%を超えたのは12年ぶりである。新卒者の合格率は2.4%上昇、既卒の合格率も5.1%上昇した。新卒者の学校別合格率において90%を超えたのは、100%の大阪歯科大学を筆頭に13校であった。

また、今回誕生した新人歯科医師において、女性歯科医師が占める割合は、47.8%となり、約2人に1人が女性歯科医師となっている。

第118回(本年度)	90.7%
第117回	90.2%
第116回	93.1%
第115回	90.4%
第114回	95.4%

松本歯科大学歯科医師国家試験
新卒合格率5年連続90%以上

Campus Today 第495号(令和7年4月発行)

西本智実マエストロ 「桜コンサート」で観客魅了

八重桜満開華やぐキャンパス 25回目の観桜会

キャンパス内の八重桜の見ごろに合わせて大学を挙げて行う恒例の「観桜会」が4月29日(火・祝)に開催された。近隣の住民や招待客ら訪れた人たちが、桜の花とともに、邦楽と茶席の野外イベントや、指揮者・西本智実さん率いるイルミナートフィルハーモニーオーケストラによる「桜コンサート」などさまざまな催しを楽しんだ。学生による大学祭「松濤祭」も同時開催され、多くの人でにぎわった。



オーケストラを指揮する西本さんと
ソプラノの山原さん(左)

各種イベントが大盛況

観桜会は、多種多様な八重桜を楽しんでもらおうと1995年に始まり、コロナ禍の中断を経て今回で25回目となった。訪れた人たちは、本部館前の受付などでイベントのチラシを受け取ると、桜を眺めながらキャンパスを巡り、真派青山流華道・煎茶禮法青山流による野だて、八丈太鼓や正派渡辺雅実穂社中の箏、渡辺 淳さんの尺八といった和楽器の演奏や、外車とクラシックカーの展示販売コーナーなど、各種イベントを楽しんでいた。本学病院では恒例の健康に関わる各種の体験・相談・測定・講演などの企画を展開し、大勢の一般市民で盛況となった。

昼食の時間帯は、屋外の飲食屋台も一段と活気づき、学生ラウンジでは全日本素人そば打ち名人の赤羽章司さんとその一門が作った信州そば、カフェテリア



煎茶の野だてを楽しむ来場者ではフランス料理のプロや美食家で作る団体「レ・ザミ・ドゥ・キュルノンスキー」が監修したスペシャルランチプレートが大人気となっていた。

本学名誉博士でもある西本さんによる「桜コンサート」は、昨年同様今回も注目を集め、会場の体育館には、招待客のほか、当日早朝から受付に並んで無料入場チケットを入手した近在のクラシックファン、大学の情操教育の一環で参加した歯学部と衛生学院の新入生たち

など900人以上が詰めかけた。

演奏は、本学校歌に始まり、ワーグナーの「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲、シベリウスの交響詩「フィンランディア」など10曲以上に及び、桜色のロングドレスに身を包んで登場したソプラノの山原さくらさんも、オペラ「セルセ」より「オンブラ・マイ・フ」、オペラ「ラ・ボエーム」より「私の名前はミミ」など情感たっぷりに歌い上げ、観客を魅了した。

幕間には、西本さんの指導で観客が指揮者を体験する一幕もあった。勢いよく手を挙げた歯学部第1学年の水野颯香さん、河村結仁君、龍崎彩乃さんの3人が幸運をつかみ、フルオーケストラを操る貴重な体験をした。

訪れた塩尻市内の女性は、「フルオーケストラの演奏やプロの歌声を全身に浴びて、こんな幸せなことはない」と感激していた。

観桜会は、本学が来年度から数年間は建物の耐震対策工事期間に入るため、当面は行わない予定となっている。

松濤祭にもぎやかに

今回で37回目となる本学大学祭「松濤祭」(実行委員長=第4学年・木ノ島旺君)は、病院外来第2駐車場を会場にして開催した。ステージイベントのほか、飲食や体験が楽しめるさまざまな模擬店やプロのキッチンカーも多数出店し、子ども連れなどで盛り上がった。

ステージイベントは、学生軽音楽部のグループ「ちょきちょき」や「二弦三弦」、「松下's」、「EVO」のライブで幕開けし、ゲストの上田染谷丘高校ギターマンドリン部や、特別ゲストのお笑いユニット「ぼる塾」「アイロンヘッド」「Everybody」、音楽ユニット「プレーメンの音楽隊」が続々と登場し、笑いと感動で観客の視線をくぎ付けにした。

主催した松濤祭実行委員会のメンバーは「楽しんでもらえて、みんなで頑張って準備した甲斐があった」と見守っていた。



お笑いタレントのステージで
盛り上がる松濤祭

Campus Today 第497号(令和7年6月発行)

第11代学長に 宇田川 信之先生が就任



学校法人松本歯科大学は6月26日(木)、第155回評議員会(定時評議員会)を本学30年記念棟で開催し、終結後、宇田川信之教授(生化学講座)の第11代学長就任を報告した。

〈宇田川先生ご挨拶〉

この度、松本歯科大学第11代学長に任命いただき、理事会・評議員会メンバーはじめ皆様様に心より感謝申し上げます。

私は1981年に本学10期生として松本歯科大学に入学させていただきました。1987年、本学卒業後、偶然のきっかけにより昭和大学大学院に進学することになり、須田立雄先生・高橋直之先生に出会い、破骨細胞研究に命を捧げることになりました。

2001年、矢ヶ崎 雅理事長による大学院設立構想の実現のため、高橋先生と私は本学に赴任することができ、立派な研究施設で硬組織研究チームを結成、発展させて参りました。また、自学自習をモットーに、きめ細かい教育環境の実現に全力を傾注してきました。

今、松本歯科大学は大変重要な岐路にたっています。私の使命は松本歯科大学の教育・研究・診療の3つの柱を充実発展させ、若い方々にバトンタッチすることです。皆様のご指導ご鞭撻ご協力をお願い申し上げます。

宇田川信之先生 略歴

1987年 3月	松本歯科大学歯学部歯学科卒業
6月	昭和大学歯学部第二口腔外科学講座前期助手
1992年 3月	昭和大学大学院博士課程修了
1994年11月	豪州・メルボルン大学セントビンセント医学研究所 CR Roper Research Fellow
1996年11月	昭和大学歯学部口腔生化学講座講師
2001年 9月	松本歯科大学歯学部口腔生化学（現生化学）講座教授
2003年 4月	松本歯科大学大学院歯学独立研究科硬組織疾患 制御再建学教授
2010年 4月	松本歯科大学副学長
2018年 4月	松本歯科大学歯学部長
2025年 4月	松本歯科大学学長代行

Campus Today 第498号（令和7年7月発行）

新学費体系スタート 6年間の授業料1750万円

歯科医師需要増を見越し門戸拡大

本学は2026年度入学者から、授業料をおよそ3割引き下げる新学費体系をスタートさせる。これにより6年間の授業料は1750万円となり、私立歯科大学17校中でも下位に属する低水準となる。



新たに制作した本学新学費体系案内リーフレット
（表紙写真は第1学年龍崎彩乃さん）

超高齢社会が進行している中、歯科医師のニーズが年々増加している現状に対して近い将来の歯科医師不足や後継者不足が懸念されている。また歯学部志願者が近年全国的に減少傾向にあるため、学費を大幅に見直すことで学費負担の軽減化を図ることを決め、経済的な理由から私立歯学部を見送ってきた受験生にも大きく門戸を広げた。

本学は、充実した環境・設備のもとに、歯科医師を目指す学生を一人でも多く育成していく方針である。

Campus Today 第498号（令和7年7月発行）

■朝日大学歯学部■

保健医療学部救急救命学科 開設記念式典を開催

2025年4月5日（土）、保健医療学部救急救命学科の開設記念式典を開催しました。テープカットにより新学科の門出を盛大に祝い、朝日大学の歴史に新たな1ページを刻みました。



左から小倉学部長、大友学長、宮田理事長、棚橋衆議院議員、渡辺参議院議員、大野参議院議員、江崎岐阜県知事

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第157号

（令和7年5月発行）

命を救う学びの始まり

時間と闘う救急救命士の養成を目指して

2025年4月5日（土）、本学6号館6201講義室他において、保健医療学部救急救命学科開設記念式典・記念講演・祝賀会を開催しました。官公庁、団体、消防、病院、大学、高等学校、企業等のご来賓150名のご臨席を賜り、学内関係者を含む約400名が出席しました。

第一部の記念式典の冒頭、ご来賓を代表して渡辺猛之参議院議員、江崎禎英岐阜県知事からご祝辞を賜り、「世界の医療が求める姿をここから発信されることを期待している」とのエールをいただきました。

さらに、棚橋泰文衆議院議員、大野泰正参議院議員、水野正敏岐阜県議会議員、伊藤正博岐阜県議会議員、森治久岐阜県議会議員、平野恭子岐阜県議会議員、森和之瑞穂市長、浅野健司各務原市長、戸部哲哉北方町長、後藤友紀岐阜南町長からお祝いのメッセージをいただきました。

続いて、棚橋衆議院議員、渡辺参議院議員、大野参議院議員、江崎岐阜県知事、宮田淳理事長、大友克之学長、小倉真治保健医療学部長（兼救急救命学科長）によるテープカットが行われ、新学科の門出を盛大に祝いました。

式典後、小倉学部長による記念講演「時間と闘う」では、1秒を争う救急医療のリアルな状況が語られ、「時間と闘える救急救命士の養成は今後の救急医療の最重要テーマの一つであり、本学科がその人材養成の役割を果たしていく」と決意を述べました。

第二部の祝賀会では、古屋圭司衆議院議員から、超高齢社会を迎える時機に合致した新学科への期待が述べられたほか、大野参議院議員、伊在井みどり岐阜県医師会会長からは、小倉学部長の人となりやエピソード等が紹介されました。

株式会社紀伊國屋書店の高井昌史会長による乾杯のご発声に続き、入学生2名へのインタビューや本学体育会吹奏楽部による演奏等が行われ、会場は活気ある華やかな雰囲気に包まれました。

本学科の開設にあたり、多くの方々から賜ったご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。第一期入学生45名とともに地域社会への貢献を目指してまいります。

第一部〈記念式典〉



宮田理事長の挨拶



テープカット

記念講演「時間と闘う」



小倉学部長の講演の様子

第二部〈祝賀会〉



大友学長の挨拶

古谷衆議院議員
による祝辞

高井紀伊國屋書店
会長による乾杯

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第157号

(令和7年5月発行)

令和6年度医学教育関係 業務功労者表彰を受ける

令和6年度の医学教育等関係業務功労者として、朝日大学病院臨床検査部臨床検査技師の青木眞由美さん、医科歯科医療センター歯科衛生部歯科衛生士の中嶋恵美子さんが表彰を受けました。

医学教育等関係業務功労者表彰は、大学における医学・歯学に関する教育研究又は患者診療等に係る業務に関して、顕著な功労のあった者を表彰することにより、関係職員の士気を高揚し、もって医学又は歯学教育の充実に貢献することを目的としたものです。



表彰を受けた青木さん(左)と中嶋さん(右)

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第157号

(令和7年5月発行)

愛知学院大学歯学部

ハノイ医科大学学長および歯学部長 が愛知学院大学を表敬訪問

令和6年12月2日(月)～4日(水)、長年にわたる姉妹提携校である国立のハノイ医科大学より、グエン フォー トウ学長およびトン ミン ソン歯学部長が愛知学院大学を表敬訪問されました。

2日は名城公園キャンパスを視察され、環境に配慮した施設に感銘を受けておられました。また、座禅を体験されました。

翌3日は附属病院にて、言語口腔機能発達外来の言語治療および院内を視察されました。午後には日進キャンパスにおいて、木村文輝学長を表敬し、面談されるとともに健康科学 牧野日和教授の言語聴覚士を目指す学生への講義を聴講されました。その後、末盛学舎に移動し、大学院歯科研究科公開審査会を視察されました。

翌4日は楠元法人本部にて、龍谷顕孝理事長を表敬し、面談されました。本学とハノイ医科大学においては長年にわたり友好関係にあり、両校のこれまでの交流について龍谷理事長に報告をし、謝意を述べられました。



左から 本学夏目長門特殊診療科教授、
ハノイ医科大学 トン ミン ソン歯学部長、
本学龍谷顕孝理事長、
ハノイ医科大学 グエン フォートウ学長、
グエン ミンドウック講師

愛知学院大学歯学部ホームページ（令和6年12月掲載）

歯学部短期海外研修を実施

— スタンフォード大学での貴重な学びの機会

令和7年2月25日(火)から3月4日(火)まで、本学歯学部生を対象とした短期海外研修プログラムを、現在スタンフォード大学（米国カリフォルニア州）に在外研究員として滞在中の山口大輔講師（高齢者・在宅歯科医療学講座）のもとで実施しました。今回の研修では、スタンフォード大学医学部睡眠・生体リズム研究所にて、睡眠研究に関する基本的な考え方や研究手法について学びました。さらに、再生医療、整形外科、精神科における最先端の研究現場にも触れることで、歯科医療にとどまらない広い視野を得ることができました。また、現地の学生とともに「これからの社会に求められること」をテーマにディスカッションを行い、活発な意見交換がなされました。特筆すべき点としては、スタンフォード大学在学中の佐々木麟太郎さんとの対談の機会も得られ、参加者にとって大変貴重な経験となりました。本研修を

通じて、参加学生はグローバルな視点を養い、柔軟な発想力と高い倫理観を兼ね備えた歯科医師を目指すうえで、大きな一歩を踏み出しました。



西野精治教授(左)と参加した本学歯学部宮川さん



左から山口講師、佐々木麟太郎さん、宮川さん

愛知学院大学歯学部ホームページ（令和7年3月掲載）

令和6年度 第59回歯学部学位記授与式を挙行了いたしました

令和7年3月7日(金)楠元キャンパス110周年記念講堂で「令和6年度 歯学部学位記授与式」を挙行之、卒業生へ木村文輝学長から学位記が授与されました。

式を終えた卒業生は、恩師に見送られ、晴れやかな表情で会場を後にしました。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和7年3月掲載）

歯学部 1 年生一泊研修が行われました

令和 7 年 4 月 4 日(金)、5 日(土)に 1 年生の一泊研修が行われました。

当日は学年主任の歯科理工学講座、林達秀教授から「6 年後歯科医師になる心の準備はできていますか?」と題して、これからの講義の受け方、勉強の仕方について、先生の経験談を踏まえたわかりやすい説明がありました。夜のグループディスカッションでは、各班でテーマを決め、SSC 担当の教員がアドバイスをしながら進め、各班から結果の報告をしました。

翌日は公益社団法人日本歯科医師会の高橋英登会長をお招きし、「歯科の未来は明るい!!」という演題で歯科医療のこれからについての講演をしていただきました。



日本歯科医師会 高橋英登会長



愛知学院大学歯学部ホームページ (令和 7 年 4 月掲載)

■大阪歯科大学■

カンボジアで活躍する卒業生を紹介しす

中川翔太先生は 2010 年に大阪歯科大学歯学部を卒業後、NPO 活動をきっかけに東南アジアの子どもたちの口腔保健に関心を持ち、2018 年ベトナム・ハノイへ。2021 年には、背景にある問題を探るためドイツへ赴き国際保健分野の修士号を取得。2022 年 9 月からはカンボジアのプノンペンで口腔保健活動を行っています。

そんな中川先生の活躍を、以下にご紹介します。



■きっかけは NPO 活動への参加

2010 年に卒業後、JAPAN DENTAL MISSION という NPO に参加し、フィリピンでの歯科治療支援活動をきっかけに東南アジアにおける小児う蝕の現状に興味を持つようになった中川先生。

その後、2018 年からベトナム・ハノイの日系歯科の院長として当地で 3 年半診療を行いました。ベトナムでも崩壊状態にある小児の口腔内状態を目の当たりにし、「何が背景にあるのか」を突き詰めるためドイツへの留学を決意。2021 年から 22 年にかけてベルリン医科大学 International Health (国際保健分野) の修士課程に在籍し、東南アジアの 6 歳以下の小児う蝕のリスクファクターに関する論文を仕上げ修士号の学位を取得したのち、2022 年 9 月から活動の拠点はカンボジアのプノンペンへ。

■カンボジアの母子保健に口腔保健教育を

中川先生がプノンペンを選んだのは、カンボジアがデータ上で東南アジアの中でもかなりう蝕の多い国であることが理由の一つだと言います。プノンペンでの活動の目標を「6 歳以下の小児う蝕の現状を改善すること」と定め、「予防は上流から」の考えに則り、現在はカン

ボジアの母子保健に口腔保健教育を導入する活動をしています。

カンボジアの現状を踏まえて母親や家族向けに書かれたこのリーフレットを作成するにあたって、本学歯学部口腔衛生学講座の三宅達郎教授に助言を求めた中川先生は、「口腔衛生学的な妥当性についての確認をご協力いただき非常に助かりました」と話します。内容への意見だけでなく、リーフレットが学術的に有用であると三宅教授のお墨付きをもらったことで、国立母子保健センターの正式な資料としてより広くカンボジアの方々に届けられるものとなりました。プロジェクトの成果は徐々に現れてきており、母子保健センター内の歯科ユニットを受診する患者さんの数は増えてきているそうです。

現在は、作成したリーフレットをカンボジア全土で使ってもらえるように保健省との協議をすすめており、各病院やNGOにもアイデアをシェアしていこうと考えているのだとか。

国立母子保健センターでは、教育に関する活動のみで歯科支援活動などの臨床は行っていないそうですが、普段はインターナショナルクリニックにてカンボジア人をはじめ世界各国の人々に向けて診療を行っているとのこと。別の日系病院との医科歯科連携で入院患者さんの治療を行うこともあり、歯科医師として臨床をきちんと行える環境にあることもプノンペンに来た理由の一つだそうです。

■みんなの意識を変えていく

今なお「いかに口腔保健について誰も何も知らないかを痛感しながら助産師・患者さん向けにレクチャーをしている」という中川先生の目標は、カンボジアの母子保健教育の中に口腔保健を定着させるために現場でコミュニケーションをとっていくこと、カンボジアの歯科医療人が自ら自国の口腔保健政策を改善できるよう必要な協力をしていくこと。

単に治療をするだけではなく、地域の人々が持つ既成概念を教育を通して変えていく——中川先生の挑戦は、まだ始まったばかりです

■学生へのメッセージ

「私が大阪歯科大学で学んでいた頃からはや10数年が経ちました。歯科医師としてのキャリアの6年ほどを海外で過ごすことになりましたが、基本にあるのは臨床研修時代から培った予防歯科への思いです。臨床、ボランティア、海外での院長経験といずれも大阪歯科大学のOBの先生方の元で多く学ばせていただき、先人の思いの連なるの先に自分の今があると感じています。一步海の外へでると、歯科臨床や口腔保健を取り巻く環境や文化は、日本の歯学部で学ぶような画一的なものではな

く、実は非常に多様で変化するダイナミックなものです。そのなかで、自分自身だけの行動が何か事を成すというようなものではなく、自分の現在の活動もまた未来の誰かの思いに繋がっていくものだと思って日々を送っています。どこに辿り着くのかもわからない荒野を行っているように思っているけど、振り返ればしっかりとそこに道ができています。一度しかない人生ですから、みなさんも自分の思いに素直に生きていって欲しいと思います。」



大阪歯科大学ホームページ（令和7年1月掲載）

南部隆之講師がNHK「あしたが変わるトリセツショー」に出演しました

本学歯学部微生物学講座の南部隆之講師が1月24日、NHKテレビの『あしたが変わるトリセツショー』（19時30分～20時15分）に出演しました。

南部先生は番組開始14分後に、「歯磨きを怠った時に現れる白い塊（プラーク）」について紹介する場面で登場。「学生に人気の授業を行っている」先生と紹介されました。

番組内では、プラークの落ちづらさを示すために、プラークを培養したガラス板を水に浸してかき回し、うがいや歯磨きの再現した実験（楠葉キャンパスで撮影）が放映されました。表面の落ちやすい部分だけがはがれて大半のプラークは残るという結果に、出演者の松嶋尚美さんも「気持ち落ちたかな」とコメント。更にウイスキーやマウスウォッシュ液で実験してもほとんどプラークははがれ落ちませんでした。

実験後、南部先生は「口の中の菌はネバネバを作る酵素を持っています。そのネバネバが菌を覆いつくしてバイオフィームを作ります。そのバイオフィームはちょっとやさつと水の流れでは落ちません」とプラークの粘着力の強さを解説しました。

出演者のマキタスポーツさんや松嶋尚美さんも手鏡を見ながら自身の歯についた汚れを確認。南部先生の実験と解説を通してプラークに対する認識が高まったようでした。



出演中の本学歯学部微生物学講座・南部隆之講師

大阪歯科大学ホームページ（令和7年2月掲載）

「大阪歯科大学 第3回 SDGs Awards あなたとわたしの『つながりごはん』エッセーコンテスト」表彰式を開催



喜びの入選者とともに選考委員との記念撮影

選考委員（左から池亀 創・読売中高生新聞編集長、角田 光代さん、田中 昭男・歯学部長、柿本 和俊・医療保健学部口腔工学科長、雄西 智恵美・看護学部長）

SDGs推進においてESD※活動に取り組む本学が行う、「大阪歯科大学 第3回 SDGs Awards あなたとわたしの『つながりごはん』エッセーコンテスト」の最終審査会と表彰式が、2月16日（日）楠葉西学舎で開催されました。

※ ESD (Education for Sustainable Development) 「持続可能な開発のための教育」

食を通じた人や社会とのつながりをテーマにつづるエッセーの募集に、全国から1326点の作品が応募されました。そのうち50点が最終審査にノミネートされ、この日に開催された最終審査会でグランプリ1点、準グランプリ3点など計20点の受賞作が選ばれました。

表彰式イベントには、入選者や保護者ら約60名が参加（オンライン含む）し、受賞者の発表に喜びの声が上がりました。表彰式の後には、審査員を務める作家の角田光代さんと読売中高生新聞の編集長によるトークショーも開催。「読むこと、書くこと」をテーマに自身

の経験を語り、参加者の生徒からも多数の質問が寄せられるなど盛況のうちにイベントは終了しました。



角田光代さんと読売中高生新聞・池亀編集長によるトークショーの様様



審査委員による最終審査会の様様

大阪歯科大学ホームページ（令和7年2月掲載）

第118回歯科医師国家試験 新卒合格率100%達成！

3月14日、第118回歯科医師国家試験の合格発表があり、大阪歯科大学は、今月7日に歯学部を卒業した受験生60人全員が合格。新卒の合格率100%を達成しました。

昨年の国試は新卒合格率95.8%で、100%にもう一歩及びませんでした。今回はついに目標の100%に到達。かねてより「学力の向上」「教育力の向上」を大学全体の目標として取り組んできた本学の努力が結実しました。

これから晴れて歯科医師としての道を歩まれるお一人おひとりが、良き医療人となられますよう関係者一同念願しております。

新卒業生のみなさん、合格おめでとうございます！

大阪歯科大学ホームページ（令和7年3月掲載）

福岡歯科大学

学校法人福岡学園の理事・評議員等を 改選、水田祥代氏を理事長に再任

任期満了に伴う本学園の理事・監事・評議員の改選が、5月27日、6月3日、6月17日および6月24日に開催

された理事会、評議員会で行われ、理事11名、監事2名、評議員12名が決まり、今期より新たに評議員として菊池仁志氏、岡留朝子氏、赤木万喜子氏、稲井哲一朗氏、宮園真美氏、古野みはる氏が選任されました。

また、理事長には水田祥代氏が、常務理事には田口智章氏が選任されました。



水田祥代理事長

福岡学園広報誌「NewSophia」

第127号 (Vol.33-3) (令和7年7月発行)

福岡歯科大学生が日本小児歯科学会 学部学生優秀賞を受賞

福岡歯科大学第6学年（令和7年3月卒業、医科歯科総合病院研修歯科医）の柿崎未来さんが日本小児歯科学会学部学生優秀賞を受賞しました。

同賞は、学業、臨床成績が優秀で小児歯科学に強い意気込みを持った学部学生を表彰する制度です。

受賞した柿崎さんは「このような賞を頂くことができ大変嬉しく思います。岡先生にはいつも熱心に御指導いただき感謝しています。これまでは大学で教科書を中心とした勉強をしていましたが、これからは病院で研修医として患者さんや先生方とたくさんコミュニケーションをとりながら良い小児歯科医になれるよう努力していきたいと思います。」と話しました。今後の活躍が期待されます。



柿崎未来さん(左)と育成小児歯科学分野岡暁子教授(右)

福岡学園広報誌「NewSophia」

第126号 (Vol.33-2) (令和7年5月発行)

海外の提携校へ学生派遣を実施

福岡歯科大学は6年ぶりに国際交流を再開し、4校の協定校へ学生21名を派遣しました。

派遣先大学	派遣期間	派遣学生
リバプール大学	令和7年5月17日(土)～5月24日(土)	6名
ブリティッシュコロンビア大学	令和7年5月19日(月)～5月25日(日)	6名
上海交通大学口腔医学院	令和7年5月25日(日)～5月31日(土)	6名
慶熙大学校歯科大学	令和7年7月20日(日)～7月26日(土)	3名



海外研修壮行会の様子



研修の様子(リバプール大学)



研修の様子(ブリティッシュコロンビア大学)



研修の様子(上海交通大学口腔医学院)

福岡学園広報誌「NewSophia」

第127号 (Vol.33-3) (令和7年7月発行)

福岡歯科大学学生研究支援プログラム リサーチ・スチューデントが決定

令和7年度の福岡歯科大学学生研究支援プログラムにおけるリサーチ・スチューデントが決定しました。この制度は、普段の講義・実習の先にある「研究」に強い関心を持っている学生を支援するもので、リサーチ・スチューデントが行う研究活動には、研究指導を行う分野に対して1件あたり20万円を上限として支援金が交付され、充実した研究活動を行うことができます。

今年度は、6名の口腔歯学部生がリサーチ・スチューデントに採用されました。学生たちは自ら設定した研究課題に主体的に取り組み、物事の本質を見極める能力を磨いていきます。



採用されたリサーチ・スチューデント

福岡学園広報誌「NewSophia」
第127号 (Vol.33-3) (令和7年7月発行)

協会役員・部会・委員会名簿

一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役 職 名	氏 名	所属大学および役職名
会 長	羽 村 章	日本歯科大学生命歯学部特任教授
副 会 長	藤 井 一 維	日 本 歯 科 大 学 学 長
副 会 長	櫻 井 孝	神 奈 川 歯 科 大 学 学 長
副 会 長	宮 田 淳	明 海 大 学 理 事 長
専務理事	宇田川 信之	松 本 歯 科 大 学 学 長
常務理事	高 橋 裕	福 岡 歯 科 大 学 学 長
常務理事	福 本 雅 彦	日 本 大 学 松 戸 歯 学 部 長
常務理事	本 田 雅 規	愛 知 学 院 大 学 歯 学 部 長
常務理事	小 林 琢 也	岩 手 医 科 大 学 歯 学 部 長
理 事	川 添 堯 彬	大 阪 歯 科 大 学 理 事 長・学 長
理 事	大 友 克 之	朝 日 大 学 学 長
理 事	古 市 保 志	北 海 道 医 療 大 学 歯 学 部 長
理 事	馬 場 一 美	昭 和 医 科 大 学 歯 学 部 長
理 事	飯 沼 利 光	日 本 大 学 歯 学 部 長
理 事	瀬 川 洋	奥 羽 大 学 歯 学 部 長
理 事	山 本 雄 嗣	鶴 見 大 学 歯 学 部 長
理 事	片 倉 朗	東 京 歯 科 大 学 学 長
監 事	牧 村 正 治	日 本 大 学 名 誉 教 授
監 事	高 橋 偉 茂	朝 日 大 学 内 部 監 査 室 長

(R7.8.31 現在)

教育・研究部会

部会長：小林 琢也
日本私立歯科大学協会常務理事
岩手医科大学歯学部長

氏 名	大 学 名・役 職 名
古 市 保 志	北海道医療大学歯学部長
武 本 真 治	岩手医科大学歯学部教務委員長
高 田 訓	奥羽大学歯学部教務委員長
日比野 靖	明海大学歯学部教務部長
阿 部 伸 一	東京歯科大学大学院研究科長
馬 場 一 美	昭和医科大学歯学部長
林 誠	日本大学歯学部学務担当
平 塚 浩 一	日本大学松戸歯学部学務担当
菊 池 憲一郎	日本歯科大学生命歯学部長
藤 井 一 維	日本歯科大学学長
槻 木 恵 一	神奈川歯科大学副学長
山 越 康 雄	鶴見大学歯学部教務・学生部長
宇田川 信之	松本歯科大学学長
玉 置 幸 道	朝日大学歯学部長
本 田 雅 規	愛知学院大学歯学部長
田 中 昭 男	大阪歯科大学常務理事・副学長・歯学部長
稲 井 哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R7.8.31 現在)

病 院 部 会

部会長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
山 下 徹 郎	北海道医療大学病院長
山 田 浩 之	岩手医科大学附属丸メディカルセンター歯科医療センター長
鈴 木 史 彦	奥羽大学歯学部附属病院長
横 瀬 敏 志	明海大学歯学部病院長
田 口 円 裕	東京歯科大学水道橋病院長
横 宏太郎	昭和医科大学歯科病院長
佐 藤 秀 一	日本大学歯学部付属歯科病院長
内 田 貴 之	日本大学松戸歯学部付属病院長
小 林 隆太郎	日本歯科大学附属病院長
戸 谷 収 二	日本歯科大学新潟病院長
井 野 智	神奈川歯科大学附属病院長
濱 田 良 樹	鶴見大学歯学部附属病院長
樋 口 大 輔	松本歯科大学病院長
辰 巳 順 一	朝日大学医科歯科医療センター長
三 谷 章 雄	愛知学院大学歯学部附属病院長
中 嶋 正 博	大阪歯科大学理事・附属病院長
都 築 尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副院長

(R7.8.31 現在)

経 営 部 会

部会長：宮田 淳
日本私立歯科大学協会副会長
明海大学・朝日大学理事長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 原 利 明	北海道医療大学事務局長
山 本 和 博	岩手医科大学事務局長
福 井 和 徳	奥羽大学事務局長
竹 部 正 樹	明海大学事務局長
加 藤 靖 明	東京歯科大学千葉歯科医療センター参与
倉 口 秀 美	昭和医科大学学事部長
井 上 由 大	日本大学歯学部事務局長
谷 龍 樹	日本大学松戸歯学部事務局長
北 見 公 一	日本歯科大学経理部長
若 槻 紀 寿	日本歯科大学法人事務局長
菅 原 光 則	神奈川歯科大学法人事務局長
竹 内 康 治	鶴見大学事務局長
廣 瀬 國 基	松本歯科大学事務局長
田 中 聡	朝日大学事務局長
加 藤 善 樹	愛知学院大学歯学部事務部長
中 尾 昌 彦	大阪歯科大学経理部長
石 橋 慶 憲	福岡歯科大学事務局長

(R7.8.31 現在)

広報委員会

委員長：福本 雅彦
日本私立歯科大学協会常務理事
日本大学松戸歯学部長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 原 利 明	北海道医療大学事務局長
齊 藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
福 井 和 徳	奥羽大学企画・広報課長
前 田 洋 佑	明海大学歯学部庶務課長
田 坂 彰 規	東京歯科大学広報部長
吉 岡 由 貴	昭和医科大学総務部総務課係員
山 崎 和 彦	日本大学歯学部庶務課長
勝 俣 剛 勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
宇 多 美 穂	日本歯科大学生命歯学部庶務部長
本 宮 由 比子	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
中 村 琢 磨	神奈川歯科大学総務部総務課長
宮 崎 輝	鶴見大学総務部総務課長
廣 瀬 國 基	松本歯科大学事務局長
額 額 力	朝日大学学事部入試広報課長
真 新 薫	愛知学院大学歯学部事務長
松 村 誠 一	大阪歯科大学管理部長
都 築 尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副院長

(R7.8.31 現在)

受験生確保対策委員会

委員長：福本 雅彦
日本私立歯科大学協会常務理事
日本大学松戸歯学部長

氏 名	大 学 名・役 職 名
古 市 保 志	北海道医療大学歯学部部長
渡 邊 義 典	岩手医科大学入試・キャリア支援課長
福 井 和 徳	奥羽大学企画・広報課長
伊 藤 敦	明海大学歯学部事務部長
船 山 雅 史	東京歯科大学教務課長
米 山 亮	昭和医科大学入学支援課長
中 澤 謙 司	日本大学歯学部教務課長
村 山 賢 是	日本大学松戸歯学部教務課長
星 川 由 利子	日本歯科大学生命歯学部入試広報担当
元 井 敏 晴	日本歯科大学新潟生命歯学部教務部・学生部課長
青 山 典 生	神奈川歯科大学募集広報部長
栄 角 政 利	鶴見大学入試センター事務部入試課長
中 村 浩 彰	松本歯科大学歯学部部長
石 本 昭 彦	朝日大学歯学部事務部長
真 新 薫	愛知学院大学歯学部事務長
畠 山 宏 史	大阪歯科大学アドミッションセンター課長
稲 井 哲 一朗	福岡歯科大学学生部長

(R7.8.31 現在)

研修委員会

委員長：小林 琢也
日本私立歯科大学協会常務理事
岩手医科大学歯学部長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 原 利 明	北海道医療大学事務局長
齊 藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
福 井 和 徳	奥羽大学事務局長
伊 藤 敦	明海大学歯学部事務部長
山 下 秀 一 郎	東京歯科大学法人事務局長
佐々木 真	昭和医科大学人事課長
佐々木 孝 全	日本大学歯学部事務長
勝 俣 剛 勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
田 口 潤	日本歯科大学生命歯学部事務部長
若 槻 紀 寿	日本歯科大学法人事務局長
遠 藤 雄 祐	神奈川歯科大学総務部人事課長
平 野 司	鶴見大学総務部長
廣 瀬 國 基	松本歯科大学事務局長
石 本 昭 彦	朝日大学歯学部事務部長
真 新 薫	愛知学院大学歯学部事務長
清 廣 哲 之	大阪歯科大学法人事務局長
石 橋 慶 憲	福岡歯科大学事務局長

(R7.8.31 現在)

歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：藤井 一維
日本私立歯科大学協会副会長
日本歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
舞 田 健 夫	北海道医療大学病院副病院長
浅 野 明 子	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
川 原 一 郎	奥羽大学歯学部教授
横 瀬 敏 志	明海大学歯学部病院長
平 田 創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
長谷川 篤 司	昭和医科大学歯学部教授
萩 原 芳 幸	日本大学歯学部卒業後教育担当
山 口 秀 紀	日本大学松戸歯学部卒業後教育担当
小 川 智 久	日本歯科大学生命歯学部臨床研修管理委員会プログラム責任者部会長
二 宮 一 智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
清 水 統 太	神奈川歯科大学研修管理委員長
山 口 博 康	鶴見大学歯学部学内教授
中 村 浩 彰	松本歯科大学歯学部長
村 松 泰 徳	朝日大学歯科医師臨床研修センター長
小 島 規 永	愛知学院大学歯学部准教授
百 田 義 弘	大阪歯科大学学生部長
都 築 尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R7.8.31 現在)

診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：櫻井 孝
日本私立歯科大学協会副会長
神奈川歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
長 澤 敏 行	北海道医療大学歯学部教授
山 田 浩 之	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター歯科医療センター長
鈴木 史 彦	奥羽大学歯学部附属病院長
横 瀬 敏 志	明海大学歯学部病院長
渡 邊 章	東京歯科大学臨床教育委員長
長谷川 篤 司	昭和医科大学歯学部教授
佐 藤 秀 一	日本大学歯学部付属歯科病院長
深 津 晶	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
山 瀬 勝	日本歯科大学生命歯学部教務部副部長
海老原 隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
杉 原 俊太郎	神奈川歯科大学臨床実習連絡委員長
山 崎 泰 志	鶴見大学歯学部教授
亀 山 敦 史	松本歯科大学教授
宇 野 光 乗	朝日大学歯学部臨床実習センター長
諸 富 孝 彦	愛知学院大学歯学部教務委員長
山 本 一 世	大阪歯科大学教務部長・理事
都 築 尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R7.8.31 現在)

附属病院感染対策協議会

議 長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏 名	大 学 名・役 職 名
永 易 裕 樹	北海道医療大学病院副病院長
山 田 浩 之	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター歯科医療センター長
鈴木 史 彦	奥羽大学歯学部附属病院長
星 野 倫 範	明海大学歯学部医療安全執行部長
笠 原 清 弘	東京歯科大学水道橋病院副病院長
マイヤース 三恵	昭和医科大学歯学部准教授
米 永 一 理	日本大学歯学部学部長
小 椋 正 之	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
石 垣 佳 希	日本歯科大学生命歯学部教授
水 谷 太 尊	日本歯科大学新潟生命歯学部准教授
岩 下 英 夫	神奈川歯科大学院内感染防止対策委員 (ICT担当)
大 島 朋 子	鶴見大学歯学部教授
栗 原 祐 史	松本歯科大学教授
亀 川 義 己	朝日大学歯学部助教授
宮 地 齊	愛知学院大学歯学部准教授
松 本 和 浩	大阪歯科大学講師
橋 本 憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R7.8.31 現在)

賛助会員企業

紹

介

コ

ー

ナ

ー



株式会社 JM Ortho

弊社は1973年矯正歯科専門商社「株式会社ロッキーマウンテンモリタ」として創立され、2018年株式会社モリタの100%子会社として「株式会社JM Ortho」に名称を変更、2021年からはデンツプライシロナ株式会社の矯正工場を承継した「株式会社モリタデンタルプロダクツ」製品の取扱いを開始致しました。

当初は海外製品を日本に紹介することを目的に創業されましたが、その後も日本の事情にマッチした海外製品のラインナップを充実させると同時に、国内の大学や臨床の先生方及びメーカーとの連携により画期的な商品開発に取り組み、日本だけでなく世界の矯正歯科医療界に革新的な製品をお届けしてきました。

近年、デジタル技術の発展によって、大きな変革の波が矯正歯科医療界にも押し寄せてきております。弊社ではこのような変化を前向きに捉え、従来の技術に加えベストなソリューションを提供し続けていくことによって、持続的な成長を続けていきたいと考えております。

代表取締役社長 森田 晴夫



東京本社オフィスエントランス

事業内容

矯正歯科用医療機器の開発、製造、販売

所在地

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-2

御茶ノ水杏雲ビル14F

TEL 03-5281-4711

FAX 03-5281-4716

<https://www.jmortho.co.jp>

株式会社アイダ設計

アイダ設計は、法人向けに建築から不動産まで多岐にわたるサービスを提供しています。

広域ネットワークを強みに、店舗や事務所、倉庫、医院といった事業用建物の木造建築を広く手掛けます。特に、医院の新規開業に関しては、用地探しから設計、建築、施工までを一貫してサポートし、事業のスタートを力強く支援いたします。

また、既存建物の維持管理も得意としており、塗装や防水工事などのメンテナンスから、大規模な修繕・リノベーションにも対応可能です。さらに、土地・建物の買取や仲介といった不動産取引の専門性も高く、事業の様々な局面でお客様を支えます。

今後とも皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 會田 貞光



茨城工場外観

事業内容

不動産業・建設業・建築設計・土地造成・プレカット加工・損害保険代理業 他

現在、「日本私立大学協会会員校の卒業生・教職員の皆様限定」で割引などのご優待特典が受けられるキャンペーンを実施しております。詳しくはお問合せ下さい。

所在地

〒362-0047

埼玉県上尾市今泉三丁目10番地11

TEL 050-3160-7438

FAX 050-3153-1950

https://www.aidagroup.co.jp/p/precut/wooden_building

一般社団法人

日本私立歯科大学協会加盟名簿

■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部
 岩手医科大学歯学部
 奥羽大学歯学部
 明海大学歯学部
 東京歯科大学
 昭和医科大学歯学部
 日本大学歯学部
 日本大学松戸歯学部
 日本歯科大学生命歯学部
 日本歯科大学新潟生命歯学部
 神奈川歯科大学
 鶴見大学歯学部
 松本歯科大学
 朝日大学歯学部
 愛知学院大学歯学部
 大阪歯科大学
 福岡歯科大学

■賛助会員■

(株) シ ラ ネ
 (株) ヨ シ ダ
 デンツプライシロナ(株)
 長田電機工業(株)
 (株) 東京技研
 (株) ジーシー
 吉田精工(株)
 (株) ハ 甕
 サ サ キ(株)
 (株) モ リ タ
 (株) ニ ッ シ ン
 (株) 松 風
 (株) モ リ タ 製 作 所
 日本歯科薬品(株)
 (株) 玉井歯科商店
 石福金属興業(株)
 沖歯科要材(株)
 (株) J M O r i h o
 (株) トクヤマデンタル
 (株) ミ ク ロ ン
 (株) モリタ東京製作所

(株) Y D M
 サンメディカル(株)
 (株) 田中歯科器械店
 医歯薬出版(株)
 (株) ブイ・エス・シー
 エンパワーヘルスケア(株)
 メ デ イ ア(株)
 (株) メルリックス
 大榮歯科産業(株)
 ネオ製薬工業(株)
 日本歯科企業協議会
 (株) アイダ設計
 (株) オールデンタルオフィス
 (株) 竹中庭園緑化
 (株) 東京歯材社
 イオンディライト(株)
 (株) アトリエMEME
 (株) ロ ッ テ
 (株) ジャパンアート
 (株) 綜企画設計
 ミサワリフォーム(株)

◇編集後記◇

協会広報第90号をお届けします。

今号の巻頭言は、鶴見大学の山本雄嗣歯学部長からいただきました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せくださるようお願いいたします。

広報委員長（協会常務理事）

福本雅彦

令和7年9月30日発行

日本私立歯科大学協会広報 第90号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 羽村 章

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階

電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069

協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：倉敷印刷（株）

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題 字】初代会長 白数美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化（初代専務理事 宮田佑先生による）